

Ⅱ. 調査結果のまとめ

1. 家庭生活における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、【全体】で「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた『賛成派』は27.4%、「反対する」と「どちらかといえば反対する」を合わせた『反対派』は60.8%で、『反対派』が33.4ポイント上回っており、その差は前回調査（平成23年）より大きくなっている。全国調査との比較では、各年の全国調査の『賛成派』は40%を超えており、『賛成派』が低下している呉市との差は拡大している。

【性別】では、前回調査と比較すると男女とも「どちらかといえば賛成する」が減少し、「わからない」が増加している。

【性・年代別】では、すべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、男性20歳代では、『反対派』が77.7%と最も高い。ただし、男性65歳以上については『賛成派』と『反対派』の差は1.8ポイントに留まっており、有意に『反対派』が『賛成派』上回っているとは言えない。

(2-1) 家庭での役割分担について

「現在結婚している方のみ」の回答で、家庭での役割分担については、【全体】で「主に夫」が高いものは「カ 生活費を得ること」、「主に夫」と「夫・妻で半々」が共に約40%で高いものは「キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）」であり、その他の役割では「主に妻」が最も高い。

【年代別】ではまた「カ 生活費を得ること」については、30歳代で「主に夫」が77.6%で他の年代より高く、以降年代が上がるほど「主に夫」の比率は低くなっている。「キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）」については、20歳代と30歳代で「夫・妻で半々」が50%以上で他の年代より高い。「ケ 自治会等の地域活動への参加」については、30歳代で「夫・妻で半々」が44.4%で他の年代より高く、「主に妻」は42.9%で他の年代より低い。

(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について

「現在結婚している方のみ」の回答で、家庭での役割分担に対する満足度は、【全体】で「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足層』が、「不満である」「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満層』を大きく上回っている。

【性別】では男性の『満足層』が93.0%で、女性の67.8%より25.2ポイント高い。

【性・年代別】では男性20歳代、男性30歳代は、「満足している」が60%以上で他の年代より高く、女性30歳代は、「満足している」が40.7%で他の年代に比べて高い。また、女性60～64歳は、『不満層』が41.0%で他の年代に比べて高い。

2. 職場における男女共同参画について

(3) 一般的に女性が職業をもつことについて

一般的に女性が職業をもつことについては、【全体】で『家事優先型』が33.2%、『再就職型』が29.3%、『職業継続型』が19.9%と続く。平成23年実施の呉市調査結果と比較すると

顕著な変化はないが、『出産退職型』が3.5ポイント減少し、『職業継続型』が3.0ポイント増加している。

【性別】では、男性は『職業継続型』、『家事優先型』が増加し、『出産退職型』が減少している。女性については平成23年と平成28年で特に大きな差異はない。

全国調査との比較では、男性、女性とも『職業継続型』は低く、『再就職型』は高い。

(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕

「お勤めしている方のみ」の回答で、雇用者の職場の現状については、【全体】で「あてはまるものはない」が62.2%で最も高く、「仕事の内容・分担に男女差がある」が21.8%、「募集・採用・配属に男女差がある」が16.9%、「能力・成果の評価に男女差がある」が9.8%で続いている。

【性別】では、男性は、「仕事の内容・分担に男女差がある」が30.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が20.5%で女性に比べて高い。女性は「あてはまるものはない」が68.5%で男性の56.7%に比べて11.8ポイント高い。

【年代別】では、30歳代は「仕事の内容・分担に男女差がある」が33.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が22.2%で他の年代より高い。50歳代は「能力・成果の評価に男女差がある」が20.5%、「教育訓練の機会を男女が平等に与えられていない」が12.8%で、他の年代より高い。

(5-1) 管理職への昇進意向について

「お勤めしている方のみ」の回答で、管理職への昇進意向については、【全体】で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を合わせた『昇進意向なし』が65.7%を占める。「どちらかといえば昇進したい」「昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』は34.3%で『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を31.4ポイント上回っている。

【性別】では、男性は『昇進意向あり』が45.2%、『昇進意向なし』が54.8%と昇進意向の有無の差が9.6ポイントと拮抗しているが、女性は『昇進意向なし』が77.2%を占め、男性の54.8%より22.4ポイント高くなっている。

【年代別】では、30歳代は、『昇進意向あり』が45.1%で他の年代より高い。また20歳代は、「どちらかといえば昇進したくない」が47.8%で他の年代より高く、65歳以上は、「昇進したくない」が62.5%で他の年代より高い。

【性・年代別】では、男性20歳代は「昇進したい」が30.4%で最も高く、男性30歳代、男性40歳代は『昇進意向あり』が50%を上回っているが、他の年代では『昇進意向なし』が50%を上回っている。

女性20歳代は「どちらかといえば昇進したくない」が73.9%と最も高い。女性30歳代は『昇進意向なし』が65.0%と低く、女性50歳代は『昇進意向なし』が88.2%と高くなっている。

(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について

前問で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方だけの回答で、管理職への昇進意向に必要な状況については、【全体】で「管理職の仕事が魅力あるものに思えば」が42.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」が34.5%、「休業・休暇がと

りやすければ」が30.9%、「給与額が自分の希望に合うなら」が26.0%、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が21.1%で続いている。

【性別】では、男性は「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が54.2%で女性の34.3%より19.9ポイント高く、女性は「家族の理解・協力があれば」が27.3%で男性の2.3%より25.0ポイント、「育児・介護などが必要なくなれば」が15.7%で男性の3.1%に比べて12.6ポイント高い。

【性・年代別】では、男性20歳代は「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」と「長時間労働がなければ」が共に53.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」については他の性年代に比べて高い。また、男性のすべての年代、女性20歳代、女性40歳代、50歳代についても「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が最も高い。

男性20歳代、男性40歳代、女性30歳代は「休業・休暇がとりやすければ」がそれぞれ46.2%、40.6%、46.2%で他の年代に比べて高い。「家族の理解・協力があれば」、「育児・介護等が必要なくなれば」は30歳代から60～64歳代の各年代で女性が男性より23.1から36.4ポイント高く、差が大きい。

(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕

女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについては、【全体】で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が78.6%と最も高く、「男性の家事参加への理解・意識改革」が53.7%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が52.7%で続いている。

【性別】では、女性は「男性の家事参加への理解・意識改革」が59.0%で、男性の47.5%に比べて11.5ポイント高い。また、女性は「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が55.0%と、男性の49.9%に比べて5.1ポイント高い。

【年代別】では、20歳代は「男性の家事参加への理解・意識改革」が67.7%で他の年代に比べて高く、50歳代は「介護支援サービスの充実」が56.6%で他の年代に比べて高い。

(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕

育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について、【全体】では「職場に迷惑がかかると思うから」が65.8%で最も高い。「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が50.6%、「収入減になるから」が45.6%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が44.0%で、「仕事が忙しくて利用できない」が40.7%と続いている。

【性別】では、女性は「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が56.3%、「収入減になるから」が48.2%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が46.1%、「子育てや介護は、女性の役割だと思うから」が20.9%で男性に比べて高い。

【性・年代別】では、男性30歳代は「職場に迷惑がかかると思うから」が86.7%で他の年代に比べ目立って高い。また、女性20歳代の「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が78.9%、「収入減になるから」が76.3%、男性20・30歳代の「仕事が忙しくて利用できない」がそれぞれ57.1%、60.0%で他の年代より高い。

(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕

仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて、【全体】では「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」が51.0%と最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」が43.2%、「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が34.9%、「経営者や管理職の意識を改革すること」が32.0%で続いている。

【性別】では、男性は「経営者や管理職の意識を改革すること」36.1%で女性の28.5%より7.6ポイント高く、女性は「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が39.2%で男性の29.8%より9.4ポイント高い。

【年代別】では、40歳代は「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」が42.8%で他の年代に比べて高い。20歳代は「労働時間を短縮すること」が33.3%、「育児・介護休業中の給付金を充実すること」が30.3%と他の年代に比べて高く、「経営者や管理職の意識を改革すること」が16.7%で他の年代に比べて低い。

3. 地域活動、市民活動における男女共同参画について

(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について

地域活動や市民活動への参加状況については、【全体】では「参加している」が34.6%、「参加していない」が65.4%で、「参加していない」が30.8ポイント高い。平成23年実施の呉市調査結果との比較では、「参加している」が7.4ポイント増加している。

【性・年代別】男性60～64歳、男性65歳以上は、「参加している」がそれぞれ40.0%、38.5%と他の男性の年代に比べて高く、男性20歳代は、「参加している」が3.7%と最も低い。

女性40歳代は、「参加している」が46.4%と最も高い。女性の20歳代は「参加している」が19.5%で、女性の年代の中では最も低い、男性20歳代に比べて15.8ポイント高い。

(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕

前問で「参加していない」を選択した方のみの回答で、活動に参加していない理由については、【全体】では「きっかけがないから」が37.6%と最も高く、「忙しく、時間がとれないから」が35.6%、「関心がないから」が27.8%と続いている。

【性別】では、「関心がないから」は男性が33.0%で、女性の23.3%より9.7ポイント高い。

【性・年代別】では、男性20歳代、男性30歳代、女性20歳代、女性40歳代は、「忙しく、時間がとれないから」が他の年代に比べて高く、女性30歳代は、「きっかけがないから」、「情報がないから」が他の年代に比べて高い。

(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕

地域活動等の現状について、【全体】では「男性の参加が少ない」が31.8%と最も高い。

【性別】では、女性は、「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」が22.7%で男性の14.2%より8.5ポイント高い。

【年代別】では、「男性の参加が少ない」は40歳代、65歳以上が他の年代に比べて高い。「男女が平等に活動している」、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」は60～64歳、65歳以上が他の年代に比べて高い。また、60～64歳は「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」についても28.9%で他の年代に比べて高い。

4. 仕事と家庭生活, 地域活動, 市民活動の両立について

(11) 生活における優先度について

生活における優先度について、「優先している」「どちらかといえば優先している」を合わせた『優先している（優先する）』と、「優先していない」「どちらかといえば優先していない」を合わせた『優先していない（優先しない）』で分けた場合、「仕事」「家庭生活」「個人の時間」は【現実】【理想】の優先度とも『優先している（優先する）』が『優先していない（優先しない）』より高い。

一方「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」については【現実】では『優先していない（優先しない）』が『優先している（優先する）』より高いが、【理想】では逆転しており、【現実】より【理想】の優先度が高い。

また【現実】【理想】で優先度の差が最も大きいのは、「個人の時間（現実：47.6%，理想：76.4%）」であり、「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間（現実：15.6%，理想：33.1%）」、「家庭生活（現実：61.3%，理想：78.1%）」、「仕事（現実：63.5%，理想：61.2%）」と続いている。

【性別】は、「仕事」の『優先している（優先する）』は、【現実】【理想】とも男性が女性より高いが、男性は現実より理想が低く（現実：75.7%，理想：65.5%）。女性については大きな差は見られない（現実：53.5%，理想：57.7%）。

「家庭生活」の『優先している（優先する）』は、【現実】（男性：53.6%，女性：67.5%），【理想】（男性：77.0%，女性：78.9%）で、【理想】では男女差は見られないが、【現実】は女性が高い。

「個人の時間」の『優先している（優先する）』は、【理想】（男性：77.0%，女性：76.0%）では男女差は見られないが、【現実】（男性54.2%，女性：42.3%）は男性が高い。

「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の『優先している（優先する）』は【現実】（男性：17.7%，女性：13.9%）では男女差が少なく、【理想】（男性：37.7%，女性：29.6%）は男性が高い。

(12) 男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕

男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて、【全体】では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が45.8%と最も高い。【性別】では、男性は「講習会や研修等を行い、男性の家事等の技能を高めること」が13.4%で女性の5.3%に比べて高く、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと（男性:27.2%, 女性:39.8%）」、「まわりの人が、夫・妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること（男性15.0%, 女性23.3%）」は女性が高い。

【年代別】では、65歳以上は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が53.7%で他の年代に比べて高く、20歳代は「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が44.8%で他の年代に比べて高い。20歳代, 30歳代, 40歳代は「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が50%以上で他の年代に比べて高い。

5. 子育てについて

(13) 子どもの育て方について

子どもの育て方について、【全体】では「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』が高いのは、「イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる (96.6%)」、「ア 男女とも経済的自立ができるように育てる (95.2%)」、「オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる (94.7%)」、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる (66.9%)」で、いずれも「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対派』を大きく上回っている。

一方、「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」については『賛成派』が27.8%、『反対派』が58.5%で、『反対派』が上回っている。

【性・年代別】では、「ア 男女とも経済的自立ができるように育てる」「イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる」「オ 性別に関わらず子供の個性を大切に育てる」について「賛成」は女性が男性より高く、『賛成派』については性・年代の差は見られない。

「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」については、『賛成派』は男性が女性より多く、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」では65歳以上の『賛成派』が74.3%、「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」では60～64歳の『反対派』が73.2%で他の年代より高い。

(14) 子どもに受けさせたい教育（最終学歴）について

自分の子どもに受けさせたい教育（最終学歴）は、【全体】では子どもが「男の子の場合」「女の子の場合」とも最も高いのは「大学」だが、子どもが「男の子の場合 (73.6%)」、は「女の子の場合 (59.7%)」より13.9ポイント高い。

【年代別】では、65歳以上の「短期大学、各種学校、専修学校」について、「女の子の場合 (26.8%)」が「男の子の場合 (5.8%)」より21ポイント高く。「大学」は「男の子の場合 (74.7%)」が「女の子の場合 (56.6%)」より18.1ポイント高く、差が大きい。他の年代では、40歳代の「大学」で、「男の子の場合 (82.7%)」が「女の子の場合 (67.4%)」より15.3ポイント高くなっている。

(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕

父親が子育てに関わることについて、【全体】では「父親も育児を行うことは当然だ」が70.9%と最も高く、【性別】では、女性は「子どもに良い影響を与える」が70.6%、「父親自身に良い影響を与える」が61.8%で男性（それぞれ64.9%、50.4%）に比べて高い。

【性・年代別】60～64歳男性は、「父親も育児を行うことは当然だ」が87.2%で他の年代に比べて最も高い。また、30歳代男性と男性60～64歳は、「子どもに良い影響を与える」が70%以上で他の男性の年代に比べて高い。

6. 男女の人権の尊重について

(16) 男女の地位について

男女の地位について、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が高いのは、「イ 就職や職場」(73.1%)、「キ 政治

や政策決定の場」(70.7%),「ク 社会全体」(68.1%),「カ 社会の通念や慣習」(67.4%),「ア 家庭生活」(46.4%)である。また、『平等である』は「エ 学校教育」(69.5%)が最も高く、「オ 法律や制度」(40.7%),「ウ 地域活動」(37.9%)と続いている。

【性別】では、いずれの事柄においても『男性優遇』の回答は女性が6.0~12.4ポイント男性を上回っており、また「平等である」の回答は男性が8.0~18.6ポイント女性を上回っている。

(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思ふ行為について

配偶者や恋人の間で行われた場合に暴力だと思ふ行為について、【全体】で、9割以上が「暴力だと思ふ」と回答しているのは「オ 刃物等を突きつけて脅す」「ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る」である。「暴力だと思ふ」が最も低いのは「ク 何を言っても長時間無視し続ける」の57.2%である。

【性別】では、「コ 「誰のおかげで生活できているんだ」など、相手が傷つくようなことを言う」「サ 大声でどなる」について、「暴力だと思ふ」がそれぞれ女性は84.9%、70.8%、男性は76.7%、58.1%と女性が男性に比べて高い。

(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について

配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為について「経験がある」は49.4%、「経験はない」は50.6%であり、経験の有無では【性別】で大きな差異はないが、いずれかの行為を「したことがある」は男性209人、女性88人、「されたことがある」は男性64人、女性275人で「したことがある」は男性が多く、「されたことがある」は女性が多い。【年代別】では40歳代は「経験がある」が60.6%で最も高く、50歳代が56.1%で続いている。【婚姻状況】では「経験がある」が結婚していたが離別・死別した人は64.2%と高く、結婚していない人は32.9%と低い。

(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕

配偶者や恋人間の暴力の経験がある方みの回答で、暴力の相談状況について、【全体】で最も高かったのは「どこ(だれ)にも相談しなかった」の67.2%である。【性別】では、男性は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が84.9%で、女性の52.7%に比べて32.2ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が29.0%、「親族に相談した」が28.0%でいずれも男性(それぞれ9.2%、8.4%)に比べて高い。

(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントについて

職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、【全体】では「経験がある」が30.3%、「経験はない」が69.7%であり、【性別】では女性の「経験がある」が36.7%で男性の22.4%に比べて14.3ポイント高く、【年代別】では30歳代の「経験がある」が55.0%で他の年代より高い。

【行為別】では各行為とも「経験はない」が「経験がある」より高いが、「経験がある」が多い行為としては「エ 容姿について傷つくようなことを言われた(20.4%)」、「ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(18.0%)」が高い。

(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について 〔複数回答〕

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」のうち、1つでも「経験がある」と回答した方のみの回答では、職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントを経験した場合の相談状況について、【全体】で最も高いのは「どこ（だれ）にも相談していない」（51.3%）で、「友人・知人に相談した」（30.8%）、「親族に相談した」（22.9%）と続く。「公的機関に相談した」は0.3%と少ない。

【性別】では男性は、「どこ（だれ）にも相談していない」が71.7%で、女性の41.2%に比べて30.5ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が38.6%、「親族に相談した」が27.6%で男性（それぞれ14.2%、13.3%）に比べて高い。

7. 男女共同参画の取り組みについて

(20) 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について

男女共同参画に関する言葉や法律の認知度については、【全体】で最も認知度が高いものは「エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）」で、「内容まで知っている」（34.7%）と「聞いたことはあるが内容は知らない」（56.4%）を合わせた『知っている』は91.1%である。次に『知っている』が高いものとしては、「ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の87.0%、「ア 男女共同参画社会」の66.7%、「オ ワーク・ライフ・バランス」の42.4%、「イ ポジティブアクション」「キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍躍進法）」の31.5%が続いている。「カ くれ男女共同参画基本計画」は71.0%、「ク リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」については86.2%が「知らない」と回答している。

(21) 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕

男女共同参画を推進する上で力を入れて取り組むべきことは、【全体】では、「子育て支援の充実」が58.9%と最も高く、「男女共同参画に関する情報の提供（49.7%）」「高齢者支援の充実（49.4%）」、「学校における男女平等教育の推進（42.8%）」が続いている。

【性別】では、女性は「高齢者支援の充実」が51.8%、「仕事と生活の調和に向けた企業への働きかけ」が42.4%、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」が38.2%で男性より高い。

【年代別】では20歳代、30歳代は、「子育て支援の充実」がそれぞれ76.9%、77.8%で他の年代に比べて高い。また20歳代は、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に向けた企業への働きかけ」が63.1%で他の年代に比べて高く、「男女共同参画に関する情報の提供」が32.3%で他の年代に比べて低い。65歳以上では「高齢者支援の充実」が61.3%で他の年代に比べて高い。